学校番号	3010

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	国語総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「国語総合」（数研出版）						
副教材等	書いて覚える　漢字練習ノート（京都書房）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・多くの作品、言葉に触れる機会を多く設け、語彙力の向上を図る。
・各作品を教材としてではなく、文学として味わえるような豊かな心を育成する。
・作品の主旨を明確に捉える力を育成するため、文章の構成について意識させる。
・古典文学を積極的に学び、言葉に対しての見識を広げる。

2　学習の到達目標

・社会人として必要な国語力の基礎を構築する。文学を味わう心を育成する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている
評価方法	行動の観察 記述の点検（ノート、ワークシート）	行動の観察（発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析（ノート、ワークシート、原稿用紙）	記述の確認及び分析（ノート、ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の点検（ノート、ワークシート） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="5">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th><th>e</th></tr>
<tr><td rowspan="2">一学期</td><td rowspan="2">小説二</td><td>教材:
小説「清兵衛と瓢箪」</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>◎</td><td>○</td><td>a:志賀直哉の世界に触れ、登場人物の感情と現代の自身との共通点、理解しがたい部分を考察されているか。次の単元とのつながりを意識させる。
b:主人公の清兵衛と、それを取り巻く周囲の人物との関係性を捉えられているか。加えて、清兵衛の心情の変化を追えているか。
d:本文に用いられている言葉の意味や効果、配置を確かめながら小説の言語表現を深く味わっているか。
e:書くことに必要な、文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしているか。</td><td>a、b:行動の観察及び記述の点検

d、e:
記述の確認と分析及び定期考査</td></tr>
<tr><td>教材:
小説「ナイン」</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>a:当時の新道の町並みを想像し、状況と変化について考察されているか。人物の変化について想像力を働かせ考察できているか。
c:作者の物語に込めた意図を考察し、記述できているか。
d:文章に書かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっているか。用いられている表現を考察することに加えて、自身を物語の中に投影できているか。
e:歴史的背景を理解した上で作品を読み取れているか。</td><td>a:行動の観察及び記述の点検

c、d、e:
記述の確認と分析及び定期考査</td></tr>
</table>

二学期	入門	教材: 竹取物語 「なよ竹のかぐや姫」	◎			○	○	a:伝記的物語の始祖と呼ばれている竹取物語は、現代においても語り継がれている作品である。映像化され、語り継がれている作品の文章に触れることで、苦手分野である古典に対する抵抗感の軽減の一助になると考える。登場人物の心情を読み取り、現代に通じる価値観の存在に気づき、古典文学への学びを深めようとしているか。 d:文章に書かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっているか。用いられている表現を考察させることに加えて、自身を物語の中に投影できているか。 e:表現の特色を理解しているか。	a: 記述の点検と確認 d、e: 記述の確認と分析及び定期考査
	随筆	教材: 徒然草 「丹波に出雲といふ所」	○			◎	○	a:入試等で頻出する作品であることを明示し、取り組ませる。一方、積み重ねた知識を活用することで、ある程度は初見であっても読解できる難易度の作品であることも、意欲を増進する一助となると考える。生徒が成長の実感を得られているか。また、不十分な点についての再学習に意欲的に取り組んでいるか。 d:既習の知識を用いた、古文を読解する実践力を確立できているか。人物、情景、心情など捉えられているか。 e:文章の形態や文体の違いによる特色について理解しているか。	a: 行動の観察と確認 d、e: 記述の確認と分析及び定期考査

三学期	故事	教材: 「狐借虎威」 「朝三暮四」	○			◎	○	a:現在も残る言葉の原型としての説話を学ぶことで、漢文に対する抵抗感を軽減する。積極的な学びの姿勢を継続的に持ち続けているか。 d:人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、漢文の面白さを味わえているか。 e:返り点の意味を理解、活用できるようにし、書き下し文を自力で書けるようになっているか。	a:行動の観察及び記述の点検 d、e: 記述の確認と分析及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す･聞く能力　　c:書く能力

d:読む能力　　e:知識･理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎印を付している。